

生命尊重の価値を深める道徳授業の開発

鈴木由美子・小原 智穂¹

Development of the Moral Lesson Methods of Teachers for deepening the Value of the Respect for Life

Yumiko SUZUKI and Chiho OBARA¹

Abstract: This thesis investigates the lesson methods of teachers for deepening the value of the respect for life. We analyzed the questions from the teachers and the children's responses in a morality lesson for fifth grade elementary school students, clarifying a method for deepening the children's thoughts. As a result, the following three points were clarified. The first was to have the students find questions during the class. It was shown that, instead of having the teacher prepare questions in advance, having the students find questions and try to solve them on their own gave the students the attitude to think on their own. The second was to give the students a method for thinking. It was shown that by giving the students a method for comparing the changes in thoughts and a method for finding the differences between the main character and the people around them, they can learn autonomous thinking. The third was to deepen the teacher's outlook on human life. Deepening the understanding of human life wherein one both shows human vulnerability yet tries to live proudly gives depth to the research of teaching materials and lesson composition. It was shown that this kind of teacher stance deepens the children's thoughts.

Key words: moral education, moral lesson, the value of respect for life
キーワード: 道徳教育, 道徳授業, 生命尊重の価値

1. 問題の所在

中央教育審議会答申(「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」平成28年12月21日)に示されたように, これからは, 「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められる。「特別の教科 道徳」においても同様である。特に, 道徳的価値を学ぶ「特別の教科 道徳」においては, 価値を深めるためにどのようにすればよいか問われてくると考えられる。そこで本稿では, 特に生命尊重の価値に着目し, 道徳的価値を深めるための教師の手立てについて検討することを目的とする。

鈴木・松田(2017)はいのち観の発達モデルを提案し, 学年に応じた授業開発を行ったが, 次の2点に課題が残された。第1に, 小学校中学年を中心として教材開発をしているため高学年用資料の開発が不十分である点, 第2に, 生命そのものを取り上げた教材開発

になっている点である。特に第2点であるが, 児童生徒にはすでに身近な人の死を経験した子どももいるため, 死を取り上げることが難しい場合もある。また, 生命尊重の価値が定着しているため, 「命が大切」から深めることが難しい場合もある。これらの諸点を考慮して, 生命そのものや死を取り上げることなく, 生きることの喜びや生きる意味について考えさせる教材の開発をめざすことにした。

小学校高学年を対象とした生命尊重の価値に関わる教材として, 鈴木らは「貫戸朋子さんの葛藤」や「6000人の命のビザ」を開発し, 実践研究を行ってきた(鈴木・松田他, 2004, 鈴木・宮里他, 2011)。これらは人間の死と向き合うことを通して, 生きる喜びや生きる意味について深く考えさせる教材である。本稿では, 人間が持つ本質的な矛盾や, 嫉妬, 優越感, 劣等感などの感情を超えるところに生きる喜びを見いだす教材として, 「ブランコ乗りとピエロ」(『私たちの道徳』小学校5・6年)を取り上げることにした。鈴木・松田

¹ 三次市立みらさか小学校教諭

(2017)によれば、小学校高学年は第3段階「多様な生き方を容認し、自分なりの生き方を社会的秩序との関係で再構成する」時期に当たる。自然の法則や社会のルールを踏まえて、自分らしいあるいは人間らしい生き方を見つけようとする時期なのである。この時期にふさわしい教材として、自分と他者との軋轢に悩む自分の感情を超えて、相手を許すことの大切さに気づかせることをねらった、本教材を取り上げることにした。なお、本教材の教材分析等については、鈴木(2017)においてすでに取り上げている。

2. 研究目的と方法

「ブランコ乗りとピエロ」の教材の学習により、児童が相手を許すことの大切さに気づくことを通して、生きることの喜びや生きる意味に気づくようにするた

めに、教師はどのような支援を行えばよいか明らかにする。本稿では、小原智穂教諭が行った授業実践のDVD録画を用いて、教師の発問と児童の反応を分析し、児童の思考を深めている指導の手立てを明らかにすることにした。対象とした授業は以下の通りである。

日時：平成28年7月8日(金) 第5校時

対象：H県M小学校5年生(24名)

手続き：道徳授業が記録されたDVDを文字起こしし、授業の実際を可視化した。児童の姿容が見られる教師の発問と児童の反応に着目し、発問の意図や手立てについて授業者に確認した。その中で、一般化される指導の手立てについて検討した。

授業の実際：学習指導案(略案)を以下に示す。

道徳の時間学習指導案

指導者 小原 智穂

- 1 日時 平成28年7月8日(金) 第5校時
- 2 学年 第5学年 児童数24名
- 3 場所 5学年教室
- 4 主題名 謙虚に広い心をもって【内容項目2-(4) 謙虚・寛容】
- 5 ねらい ブランコ乗りのサムに自分の出番の時間を奪われたピエロが、その行為を許し認めようとする心情やその理由を考えるを通して、相手を認め許すことの大切さを知り、謙虚に広い心で生活していこうとする道徳的心情を養う。
- 6 資料名 「ブランコ乗りとピエロ」【私たちの道徳 文部科学省】
- 7 準備物 資料の絵・ワークシート・写真
- 8 学習展開

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)と評価(☆)
導入	1 宿泊体験活動を想起させる。	○宿泊体験活動のゲームの様子を思い出しましょう。	○みんなで協力し、時間まで一生懸命したゲームを想起させ、「寛容」の価値への動機付けをさせる。
	2 「ブランコ乗りとピエロ」を聞いて話し合う。 ①自分の出番の時間をうばわれたピエロの気持ちを考える。	○「ブランコ乗りとピエロ」を聞き、話し合しましょう。 ○時間を過ぎてても演技をやめないサムを、ピエロはどんな気持ちで見ていたのでしょうか。 腹が立つ(怒り)。 ・また自分のことしか考えていない。 くやしさ ・自分がこのサーカス団のスターだと思っているんだ。 あせり ・自分の出番がなくなる。 ・サーカス団のためにならない。	○資料を聞きながら、自分が考えたい部分や心を動かされた部分に線を引かせ、課題意識を持たせる。 ○ピエロの気持ちを考えさせ、悔しさや怒りなどの感情に共感させる。 ○演技をしているサムの心情も考えさせ、一生懸命演技していることに気付かせる。
	②一瞬立ち止まりかけたピエロの気持ちを考える。	○サムとすれ違う時、一瞬立ち止まりかけたピエロは、サムに何を伝えたかったのでしょうか。 ・どうして時間を守らなかったんだ。	○自分の思いをぶつけようとしたが言えなかったピエロの気持ちに気付かせる。

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援 (○) と評価 (☆)
展 開	③憎む気持ちが消えたピエロの心情の変化を考える。 【かんがえる】 【問いをさがす】	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけ良ければいいのか。 お前よりいい演技をしてやる。 自分の方が客を楽しませることが出来る。 ◎ どうしてピエロの心の中から、サムを憎む気持ちが消えたのでしょうか。 気付き <ul style="list-style-type: none"> 初めて素直な気持ちでサムに向き合った。 サムも努力をしてきたんだ。 サムは私に気が付かないほど頑張っていたんだ。 自分を見つめて (振り返って) <ul style="list-style-type: none"> 自分も自分の出番のことしか考えていなかった。 自分が目立ちたかったから腹が立ったんだ。 尊敬 <ul style="list-style-type: none"> サムの努力と実力は素晴らしいものだ。 観客を喜ばせるために一生懸命だった。 サムを見習いたい。 	○キーワードとなる言葉を提示し、ピエロの心情の変容に気付かせる。「演技を終えたばかりのサムをみたのは初めて。」 「隙間から見たサムの演技と終わった後の疲れ果てた姿を何度も思い出しているうちに…」 ○ワークシートに記入させ、班で交流させた後に、全体で意見の交流を行わせる。 ○考えを発表し合い、自分と違う意見や良い考えだと思ふ意見に気付かせる。 ☆「許す」ことの大切さに気付き、謙虚な心で接することの意義を考えている。
	3 自分の生活を振り返る。(内省化) ①二人が得たものについて考える。 【未来へのヒント】	○二人はどんなものを得ることができたでしょう。	○友達や絆など、児童が考えた言葉を出させる。 ○ピエロも憎しみから解き放たれたことに気付かせる。 ○広い心から得られるものを、日常生活とも関連させて考えさせる。
終末	4 宿泊体験活動の作文を聞く。	○宿泊体験活動の作文を聞きましょう。	○レインボープログラムに関連する活動を想起させる。

3. 授業での教師の発問と児童の反応

授業での発問と児童の反応について、主な発問のところを取り上げる。記述に当たっては、教師、児童のプライバシーに配慮し、意味が変わらない程度に修正加筆している。

①の発問と児童の反応

T時間を過ぎても演技をやめないサムを、ピエロはどんな気持ちで見ているのでしょうか。
 Cブランコ乗りのサムだけ目立って、自分も古くからのスターだし、大王様の前でやってみたい。
 Cピエロは古くからのスターなのに、半年前から入ってきたサムに役をとられて、大王様の前で目立ってないからくやしいう気持ち。
 Cとっても腹が立つ。
 Cサムばかりお客さんの前で目立って自分は目

立たなくて、なんでサムだけいつも目立って、なんかすごい腹がたつてむかつくなっていう気持ち。
 C自分がスターだと思っている。サムは自分がスターだと思い込んでいることに腹が立つ。
 C大王様の前で一人で目立っているサムにちょっと嫉妬してる。

この発問で教師は、子どもたちからサムの行動に対しピエロが持った「怒り」や「嫉妬」といった感情を引き出している。

②の発問と児童の反応

「サムとすれ違う時、一瞬立ち止まりかけたピエロは、サムに何を伝えたかったのでしょうか。」の発問に迫る前に、「みんななら何を伝える？」と問い、児童から次のような意見を引き出している。

C ちょっとやりすぎかな？
C ピエロもやりたかったのに、自分だけ目立ちたいという自分の考えだけで時間をやぶった。ほかの人のことも考えて。
C 考えてじゃなくて考えろ！
T 「考えて」と「考えろ」では何が違う？
C 言い方が違う。
C 怒り。
T 怒りが入ったんだね。
C また今日も自分勝手に、お前中心に地球は回っていないぞ。
C 勝手な真似をするな。

③の発問と児童の反応

このように教師は、ピエロの気持ちに寄り添わせながら、児童がピエロだったら持つだろう怒りの感情を十分に引き出した。それは児童自身の中にある怒りの感情でもある。その後、怒りの感情を持っているピエロが、その感情を抑えたわけに着目させるため、次のように発問した。

T 怒りの気持ちを持っていたけど、ピエロは言った？
C サムが舞台裏でぐったりと苦しそうだったからまあいいかと思ってその時には言わなかった。
T あとから言ってやろうと思っていた？
C ぐったりしていた姿をみて、怒っていた気持ち収まった。
T 演技を終えたサムを見たのは、この時が初めてだったんだね。半年前から一緒にやっているのに、初めて見たサムは、苦しそうにしていたね。
T 控え室で団員はみんなサムを責めたのに、ピエロはサムの姿を思い出していた。カーテンの間からみたサムの演技と終わったときのサムの姿を何度も思い出しているうちに、サムを憎む気持ちが消えていった。

さらに教師は児童の考えを深めるために、次のような逆説的な問いをした。

T ピエロもみんなと同じ調子で言ったらいいのに。「そうよそうよ。」って。みんなも怒りが千個、1兆個って言ってたよね。みんなが言ってるのだからピエロが言ってもちっともおかしく？
C ない。

T 一番言いたいのは？
C ピエロ。
T 一番言いたくないのはピエロからサムを憎む心が消えているの。自然と消えたんじゃないだろうね？なんで消えてしまったんだろう？ピエロは、何度も思い出したね。あのとときの姿、演技を終えた姿を何度も思い出していましたね。どうしてピエロの心からサムを憎む気持ちが消えたのか、ワークシートに書いて下さい。

中心発問である「どうしてピエロの心の中から、サムを憎む気持ちが消えたのでしょうか。」の前に、ピエロの中にある怒りの感情を十分出させることで、それを抑えて何も言わなかったピエロの価値観に気付かせることをねらっている。当たり前を揺さぶることで深く考えさせるものであった。

一瞬立ち止まりかけたピエロは、何か言いたそうだったが言わずにサムから離れた。このときのピエロの気持ちは、児童の意見にあるように、怒りに満ちていただろう。教師はこのとき、怒りに満ちたピエロが何も言わなかったことに着目させ、その理由を考えさせた。その際に、ピエロが、ブランコ乗りの演技をしているサムの姿と、演技を終えた後のサムの姿を思い浮かべ、比較し、考えていることに着目させた。児童は、ピエロの立場だったら当然持つ怒りの感情を共有しつつ、それにもかかわらず何も言わなかったピエロの思いを考えることを通して、人を許すということについて考えを深めていった。この授業ではまず個人思考の時間を取り、その後班で交流する時間を取った。

3分間ワークシートに個人の意見を記入し、その後班で交流した。班での交流の際、教師は班を回り、児童に問いを投げかけ、疑問を持たせた。授業の中で、児童自身が問いを見つけることを促していたのである。

班で意見を交流した後、班で出た意見を班同士で交流した。そのときの指示は、次の通りである。

T では、班の中で意見を交流して、出た意見をまとめてもらおうと思うのですが、班の中でも色々な問いが出てきていました。先生に言われて、「えっ？」となった班もあります。みんなも「えっ、どういうこと？」「どういう意味？」ということを考えながら聞いて下さい。他の人の意見とどこが違うのかを考えながら聞いて下さい。

ここで注目したいのは、個人の意見を班で交流する際に「問い」を見つけていること、その「問い」に

える形で授業が展開されていくことである。「考え、議論する」道徳においては、考えるべき問いが重要な意味を持つてくるが、その問いを児童が自分たちの意見の中から見つけるところに本実践の特徴がある。

班から出た意見は以下の通りである。

- Cサムは自分と似ていて、自分の曲芸で観客を楽しませたり、同じサーカス団の人に認めてもらったりするために演技を一生懸命していること。団員に認めてもらおうとすることに気づけたから。
- Cサムも観ているお客さんを楽しませるために一生けん命にしていることが分かったから。
- C観客を楽しませようとするために頑張っている。
- Cサムは疲れ果てていたけど、一人で力一杯頑張って遊び心だけでサーカスをしていたのではなく観客を喜ばせたかったからです。
- Cサムは遊び心でサーカスをしていたのだと思っていたけど、本当はサムも一生懸命だった。

これらの意見に対し、それぞれ受け入れながら、教師はさらに児童の考えを深めるための発問をしていった。

- T最初のところでは、ピエロはサムのことをふざけてやっているんじゃないかと思っていた。遊び心っておもしろい言葉だね。本気でやってないんじゃないかというふうに思っていた。思い込んでいた。自分の思い込み。サムに対してね。だから、本当はこんなふうに一生懸命がんばっていたからなんだってことに気付いたんだ。自分と似ているという意見が他にも出ましたね。自分の意見と似てるって何が似てたのですか？
- Cどちらもただ目立ちたい。
- Tどちらもただ目立ちたい。目立ちたいのはどっち？
- Cどっちも
- Cサムとピエロ
- T目立ちたい姿が似ているというのは、目立ちたがり屋、どちらも目立ちたい。どちらもスターだった、似ているんだというのに気付いたのは誰？
- Cピエロ。
- Tじゃ、ピエロは気付いたんだ。
- Cはい。
- Tピエロは自分もサムも似ている。同じ思いをしていたことに気付いた。ピエロはサムの姿を見

ながら、誰を見ていたんだろうね。サムだけを見ていたのかな。「一生懸命だったから許してあげる。」と言っていたけど、一生懸命だったら何でも許してもらえん？許せるの？班で少し考えて下さい。

ここで教師は1分程度の時間を取り、班で意見を出し合う時間とした。その後の児童の意見は以下の通りである。

- Cサムと自分を重ねてみていたんだと思います。
- Tサムと同じ思いだということだけでなく、自分を重ねて見る。相手のことばかりじゃなくて、自分を重ねて見ると、そこは納得できるなという部分がある。〇〇さんのところ、どうでした？
- Tこの考え方、みんなどう思う？相手と自分を重ねて見る。そうしたら案外同じだったじゃないかな。自分のことを振り返ってみたら、なんとなく同じ。同じだったら、相手を憎むってどうということなん？
- C自分を憎むということ。
- T相手を憎むとは自分を憎むことになっちゃうんだね。
- Tいろんなことに気付くこと。まず気付くこと。そしていろんな思いを重ねてみると、いろんなものが許せると思う。同じだなと思うと許せる。

こうして児童は、ピエロはサムが自分と同じように観客を喜ばせるために一生懸命だと気づき、そこから自分の勝手な思い込みに気づき、自分を振り返ってサムを許す気持ちを持ったことに気付く。それは自分自身を許すことにもつながるのである。この後の振り返りでこの心の動きは、児童が宿泊体験学習で持ったものと同じだったことに気付かせ、教師は日常化を図っている。

4. 道徳授業において価値を深める教師の手立てへの示唆

以上の授業実践から、生命尊重の価値を深める手立てについて考察していくことにする。

(1) 授業の中で問いを見つけさせること。

「考え、議論する」道徳授業を行うために、課題解決型の授業が求められているが、本授業のように授業の中で児童が問いを見つけていく授業にすることで、児童が問題を自分のこととして考え、他の児童と話し

合いながら問題解決をめざす授業は、児童の思考を主体的にする点で優れていると考える。友だちの問いを考えることで自分の思考が深まる喜びは、児童同士の信頼感や帰属感の醸成にもつながると考えられる。

(2) 考える方法を与えること。

本授業では、主人公の考え方を考えさせる際に、前と後での気持ちの違いや主人公と周りの人との考え方や態度の違いを比較し、違いに気付かせる、共通性に気付かせるといった考える方法を与えていた。

演技前と演技後のピエロのサムへの気持ちの変化、サムをとりまく人々がサムに対して持つ気持ちとピエロに対して持つ気持ちの違い、大王の前で演技することと観客の前で演技することの違いなど、比較、推論、想像などをさせながら考えさせていった。児童が共通性と違いに気付くようにするために、教師は何度も考えるべきポイントを説明し、考える方法を示している。考える方法を渡すことで、児童が日常の場面でも自分で考える力をつけていくと考えられる。

(3) 教師自身の人間理解を深めること。それを授業方法に組み込むこと。

本教材では、主人公の怒りや嫉妬といった負の感情を自分のこととして捉えさせ、それを乗り越えた主人公の考え方に気付かせることで、人間の美しい生き方を支える価値に気付かせることが求められる。

人間観の問題でもあるが、人間には気高く生きていきたいと願う思いとともに弱さも持ち合わせていると考えることで、児童理解に深みがでる。本授業では、主人公の心情を理解する際にも、教師の深い人間理解に基づいて、人間の中にある弱さを自分にもあるものとして共感させ、それを乗り越えるところに人間として生きる喜びがあることを実感させていた。そのための方法論として、逆説的な問いを行っているところは参考になる。さらに、怒りなど負の感情を持って当たり前な場面で、それを抑えることで得るものの大きさについて「未来へのヒント」で考えさせていることは、日常の生活指導にもつながる点で有効だと考えられる。教師の深い人間理解に基づいた教材理解と、子ど

もの内にある善さを信じて働きかける教師の愛情、さらにそれを授業の中で具体化する方法が必要である。根本的なことであるが、こういったことを再確認することが大切であろう。

本稿では、小原教諭の実践記録を基に、生命尊重の価値を深める教材として「ブランコ乗りとピエロ」に着目して、価値を深めるための教師の手立てについて考察した。これからの道徳授業では、教材研究、発問の開発、板書の構造化といった他教科の授業と同じような実践研究開発が求められると思われるが、それとともに道徳授業ならではの課題として、道徳的価値を深めるための教師の手立てが問われてくるだろう。価値を深めるとはどういうことか、そのためにどういう手立てが必要か。今後も研究を進めていきたい。

引用・参考文献

- 鈴木由美子・松田芳明・中尾香子・今永泰生「道徳的価値葛藤を含む教材を用いた道徳授業の開発」『学校教育実践学研究』第10巻 2004年 119-135頁
- 鈴木由美子・宮里智恵・山内規嗣・小早川善伸・安松洋佳・川崎正盛・林原慎・松尾砂織・柳生大輔「道徳的価値に気づかせるための伝記教材の開発」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第39号 2011年 189-194頁
- 鈴木由美子・松田芳明「生命尊重の価値に迫る道徳授業の創造」『学校教育実践学研究』第23巻 2017年 155-161頁
- 鈴木由美子「子どもの内なる善さを引き出す道徳の授業づくり」(研究者×実践者が提言!「考え・議論する道徳」の授業づくり リレー連載第4回)『道徳教育』7月号 明治図書 2017年 68-70頁
- 「ブランコ乗りとピエロ」文部科学省『私たちの道徳』小学校5・6年 84-87頁

*本研究はJSPS 科研費16K04766の助成を受けたものです。